

tokyo

あなた
君の輝く瞳に逢いたい…

Asuka

福山 葦陽
東京同窓会
広報誌
2013
07

【あしび】

時を越えて

〈あの時代—先輩・後輩対談〉

放談 バドミントン対談

〈報告〉第26回 福山葦陽東京同窓会

〈クラスメイトレター〉同期の皆さん、お元気ですか…

〈エッセイ〉愛孫との再会 来山 和義

〈母校より〉ニューヨーク留学、母校での講演会、出張授業

〈恩師より〉寺地亮二先生、坂本 博先生

〈福山総会レポート〉原風景との出逢い ~あの頃の私たち~

〈支部だより〉近畿、広島支部

〈東西南北〉四万十川より

〈ふくやま・ひろしま・とうきょう情報〉

〈書業60年〉大楽華雪の世界 日本展

懐かし~のう

福山

写真で見る

福寿会館
鞆軽便鉄道



福山駅で国鉄列車と並ぶ鞆鉄軽便列車(昭和10年代)

第26回 福山葦陽東京同窓会 報告



福山葦陽東京同窓会会長

高田 稔

会員の皆様には益々お元気で、充実した毎日をお送りの事と拝察いたします。

昨年、昭和28年卒の來山和義会長より、身に余る次の会長のご指名を受け、早くも一年を経過いたしました。微力ながら精いっぱい務めさせていただきます。

今年に入り早速「あしび07号」の発行に向け役員会にて準備を進め、本日お届けすることが出来ました。発行を重ねるごとに益々読みやすく、親しみのある内容になってきたと自負しています。会員同士の親睦、情報伝達にお役立ち出来るものと確信し、今後とも同窓生皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

昨年の東京同窓会は10月14日(日)に例年通り八重洲富士屋ホテルにて約100名の出席のもと開催されました。恩師の井上謙二先生、平松朝美先生をお迎えし、懐かしい話に花が咲きました。

藤井校長先生からも在校生の現状や新しい修学研修旅行の企画など、新鮮な話題で母校に想いを馳せることが出来ました。このページにて、皆様の晴れやかな楽しい笑顔とともにご報告いたします。

今年の同窓会は別添ご案内のとおり、11月17日(日)八重洲富士屋ホテルにて開催いたしますので、少し時間の空いた同窓生、先輩、後輩にもお声掛けの上ご参加くださいますようお願いいたします。



1 福山葦陽東京同窓会 來山和義会長の開会の挨拶。
2 恩師 井上謙二先生と平松朝美先生。
3 来賓の福山葦陽同窓会 赤松治美会長の挨拶。
4 広島県東京事務所次長 小林即典さんの挨拶と「TAU」の紹介。
5 恒例になりました八重洲富士屋ホテルの同窓会会場。
6 福山葦陽高校 藤井悦子校長の母校の状況報告と挨拶。



7 さあ、懇親会のスタート! 乾杯の音頭は渡邊副会長。
8 先輩あつての後輩です、いつまでご指導下さい。
9 会計監査の山本さん、池田さん、ご苦労さまです。
10 *大村晶子さん。いつもお元気で出席して下さいました。
11 会計報告はしっかり者の広江さん、木下さん、神さん。
12 来賓の方々と恩師の先生。そして一番上のおねえさま方。



13 23年卒はいつまでも一緒(*大村晶子さん前列右端)。
14 36、37、41年卒、さてこれからもう一花!
15 26、27、28年卒の皆さん、南高校時代の卒業生。
16 24、25年卒の皆さんの「絆」にはいつも脱帽です。
17 38~50年卒までの方々。ユニークな感性を感じます。
18 40年代の皆さん、還暦過ぎてもまだまだ若い、若い! 若い!

出席者（敬称略）

- 本部会長 赤松 治美
- 葦陽校長 藤井 悦子
- 恩師 井上 謙二
- 広島県事務所 平松 朝美
- 福山市事務所 小林 即典
- 児玉壽實子 S19
- 佐藤美恵子 S21
- 豊沢 朝子 S23
- 大村 晶子 S23
- 北中三重子 S23
- 左山 邦恵 S24
- 武田 和美 S24
- 竹政 昌子 S24
- 鳥越富美子 S24
- 深坂 幸子 S24
- 藤井 幸子 S24
- 藤本 綾子 S24
- 宮野 紋子 S24
- 石山 勝子 S24
- 市橋 信子 S24
- 伊藤 純子 S24
- 川原 絹子 S24
- 占部 健夫 S25
- 原田 玲子 S25
- 藤永 隆江 S25
- 山本 政造 S26
- 神田 弘子 S26
- 蔵本 勝太郎 S26
- 徳永 勝太郎 S26
- 橋本 文子 S26
- 松浦 文子 S26
- 松浦 功子 S26
- 大土井 晃 S27
- 松岡 洋三 S28
- 来山 和義 S28
- 永島 直子 S30
- 小田 富子 S30
- 柳井 淑彦 S31
- 岩瀬 健祐 S31
- 占部 勲司 S31
- 三島 克紀 S31
- 池田 朗子 S32
- 石田 久夫 S32
- 正田 典晟 S32
- 廣江 邦男 S32
- 岩尾 悦子 S32
- 黒田真理子 S32
- 小川 敏彦 S33
- 丹下 幸治 S33
- 藤井 栄治 S33
- 山下 和子 S33
- 吉井 恵子 S34
- 開原 剛 S34
- 佐藤 凡雄 S34
- 連石 勉 S34
- 中山格三郎 S35
- 伊地 範子 S35
- 山本 昌三 S35
- 渡邊 昌信 S36
- 井上 哲也 S36
- 岡田 素子 S36
- 川端美枝子 S36
- 来山 征士 S36
- 来山 隼生 S36
- 桑原 尚司 S36
- 坂本 廣司 S36
- 高田 稔 S36
- 東田 早苗 S36
- 松田 恵子 S36
- 向井 総昭 S37
- 岩瀬 浩造 S37
- 遠藤 宏子 S37
- 垣原 洋昭 S37
- 坂本 昭博 S38
- 佐久間 昭博 S38
- 本瓦 定美 S38
- 升川 澄子 S39
- 三吉 伸子 S39
- 佐藤 松枝 S39
- 田丸佐知子 S40
- 西丸 直枝 S40
- 石田 久夫 S41
- 正田 典晟 S41
- 廣江 邦男 S41
- 清川 茂子 S42
- 住谷敏日子 S42
- 藤井 孝敏 S42
- 池田由紀子 S42
- 小池 秀子 S42
- 寄國 雅子 S42
- 寄國 雅子 S42
- 香妻 悦子 S42
- 佐藤 法子 S42
- 相原 謙一 S42
- 加藤 和子 S42
- 叶野 恵美 S42
- 森山 幸代 S42
- 彦山 幸男 S42
- 土田 浩司 S42
- 成澤 博行 S42
- 福島 博行 S42

● 数字は卒業年

*北海道旭川より毎年参加されてい
ました大村晶子さ
んは、今年1月にご
逝去されました。



11 いつも受付で苦労さま。土田さん、清川さん、神さん。
12 故郷からのイベントポスターが会場を盛り上げます。
9 司会者、議長は40、50年代の若手(?)が務めます。
10 福山弁かるたの紹介や展覧会の案内を掲示
7 第2回 福山葦陽同窓会作品展 (福山で開催)を写真で紹介。
8 あしびの紹介と寄稿、カンパのお礼。編集担当寄國副会長。



22 石井義信さんは日本サッカーの裏話やエピソードをご披露。
23 教え子と懐かしい昔話で盛り上がる井上謙二先生。
20 新役員の顔ぶれ、ほんの少しだけ若くなりました。
21 さてさて何の話でしょうか？ 30年代卒のおじさまたちは。
19 長い間会長の大役、お疲れ様でした来山和義さん。
東京同窓会を永遠に続けましょう。頼んだよ！



34 高田新会長を囲んで。会の中心的存在の35、36年卒。
35 二次会に参加の皆さん、遅くまでお疲れ様でした。
32 33、34年卒の皆さん、男性陣がリードしている年代？
33 二次会「恩師を囲む会」。そろそろ口が軽くなったツ(平松先生)。
30 31、32年卒の皆さん、熟年の情熱とパワーを感じます。
31 46、48、49、50年卒の若手のテーブルには笑いが一杯。



健康登山



中島信義 (昭和28年卒 練馬区)

■昭和28年卒で来年は80歳になります。退職(60歳)後は自分なりに思うままの生活をしてきました。健康で自分が誰かの役に立つこと、それに少々の経済的余裕が退職後の生活の基本になります。健康寿命をできるだけ長く維持し、人生の晩秋期を短くして、自然寿命を全うしたいと思っています。そのため健康維持に登山を選んだことが非常に良かったです。退職まではほとんど登山の経験はなく、運動はテニスのみでした。最初は西武沿線の奥武蔵の低山と奥多摩方面の山々でした、続いて丹沢の山々から八ヶ岳の縦走へと少しずつ登山らしくなりました。南アルプスの甲斐駒ヶ岳、仙丈ヶ岳、荒川三山などの雄大さに魅了されました。北アルプスは槍ヶ岳から始まり穂高岳で終わりましたが、岩場の縦走は厳しかったが良い思い出です。北海道は羅臼岳、斜里岳、阿寒岳のみです。東北は岩手山、早池峰山、森吉山、燧ヶ岳などですが、スケールが大きいです。ところが平成22年浅間山の下山途中で左股関節を痛めてしまいました。もう一度低山でもよいから山へ行きたくて、骨盤調整を約1年したおかげで、再度山へ行けるようになり、現在は最初の奥武蔵の山々へ登っています。80歳でも時間をかけ自分に合った山を選べば登山は出来ます。山は『無心』で向き合うことが出来、自分の状況をよく知らせてくれます。これからも安全第一に健康登山を目指して、山から離れないようにしたいものです。

昭和36年卒

文化祭の英語劇



來山隼生 (昭和36年卒 横浜市)

■この写真は高校2年の文化祭で、英語部による英語劇に参加したときのものです。今では、題名もストーリーも全く記憶に残っていませんが、セリフのワンフレーズは今でもしっかりおぼえている。登場場面はほんの一場面で「アイアム エキサクユウシヨナー、ニ云々」とセリフを発すると場内からドット笑いが起こった。セリフの言い回しが不自然であったのか、衣装がこついでであったのか、何故かはわからない。クラブ活動の「コマ」として思い出される。社会人になつてからは国内各地を転動することが多く、同窓会への出席も疎遠となり、みなさまにお会いする機会が少なくなつた。今後は、出来るだけ出席し「ワッシャー...」「ソージャーノ」「ソリヤアヨシランナー」などしっかりと身についている言葉で在校当時のことや近況など歓談したい。現在は、すべての時間を自由に使えるので、急がず、ゆつくりとしたリズムで生活するよう心がけている。これといった趣味はなく、思い立てばウォーキング、時に旅行、機会があればゴルフなど。高校を卒業し50数年が経過、現在71歳、身体的変化が相当進みました。ご覧のとおり。今春、ウィーンを訪ねたときに撮った写真です。

昭和41年卒

青春18切符のままに!



石田久夫 (昭和41年卒 品川区)

■卒業後、日大郡山から東京の中堅建設会社へ入社。大阪支店勤務で一現場員として社会人となりました。建築士免許を一発で取得後は、君の先輩が福岡に居るので、九州で現場主任業務が始まり、勤務努力で営業所から支店に昇格。博多に来る時は、一人でしたが、帰るときには二人連れて、愛妻信子と27歳で結婚しました(逢つて17日目で申し込み→ラッキー受諾)。転勤族の典型か、大阪3年、博多4年と少々、海外(トリニダード・トバゴ国)2年、広島3年半、そして東京で現在までの30年余りを転々とし、仕事の一生懸命は別として、その地その地の風情を愛妻信子と共に十分堪能しました。建設会社31年目に下手法なゴルフでホールインワンを出した2週間後に、会社は民事再生法の適用になる。次期社長候補から再生に協力要請をされ「貴方は、社長の器ではない」と断つたのが幸いか? 第一号の解雇予定者に。設備担当役員の紹介で、JR東日本系の会社に12年、43年間元気に働いています。休みは、寸暇を惜しんで、真赤なチャリンコと共に一人旅(ポタリング)を楽しんでいます。JRの青春18切符を活用し、愛妻信子と安価な旅を心に刻んでいます。「後悔する人生は送らない」の言葉を基に、仕事に余暇に思いのままに気持ちを現わし、悩みは無いせいか現在、青春18切符からの体内年齢50歳を継続中です。

昭和
45年卒

50代になって 新たなチャレンジ



毎日が勉強

寄國 雅子 (昭和45年卒・西東京市)

■夫婦で一緒に立ち上げた小さな小さな事務所。それなりに成り立って25年が経ちました。50歳を過ぎる頃、ふと私自身は何をやりたいのだろうと考えることが多くなりました。その頃両親も高齢になり、福山の実家で姉達の介護を受けて生活をしていました。親の介護のために勉強してもいいのかと、介護技術を習うために通った介護ヘルパー2級の講習。折角技術を習得したのですが、残念ながら、親の介護には間に合いませんでした。

人生の大先輩が老いて生活に支障が出てきたとき、必要になるのが、現在の介護保険サービスです。ひよっとしたら私の人生の神様は関われと言ってくれているのではないかと感じることも多々あり、夫の理解のもと半日ヘルパーの仕事を始めました。5年後機会があり、ケアマネジャーの資格をとることができました。それから3年、20歳〜30歳くらい先輩の利用者の皆様の生活を支援しています。いずれ自分も行く道、他人ごとではありません。模範とする高齢者もいます、反面教師となる高齢者もいます。全ての利用者が私のこれからの人生の先輩です。どんな老後を迎えたいのか、50代後半から人生の先輩達の生活を見せていただく機会を持ち、勉強させていただけます。東京同窓会にも70代、80代でもまだまだ現役の先輩達がたくさんいらっしゃいます。私も負けてはいられません。有意義な60代を過ごすごことができそうです。

昭和
49年卒

趣味はテニスと旅行



コートライン引き、ネット(支柱含)の製作は、全て自分達で行いました



伊豆の河津バガテル公園で伊豆の踊り子さんと一緒に(妻がヤキモチ?)

彦田 幸男 (昭和49年卒・横浜市)

■早いもので、卒業後39年が過ぎました。大学4年間は東京、現在の会社に入ってから横浜在住です。ただし、11年前から福島県の須賀川市に単身赴任中で休日に横浜に帰るといった生活です。3・11東日本大震災時にはアパートが半壊し部屋に入ることもできず、2週間会社に寝泊まりしました。現在は別のアパートに引越し、普通の生活に戻っています。

さて、私の趣味はテニスと旅行です。テニスは、会社の部活に入り15年程やりましたが、腰痛・業務多忙等により休止していました。しかし、5年前の健康診断でメタボと指摘されたのを機に再開し、毎日昼休みに汗を流しています。ただし、気持ちとは裏腹に体は昔のように動かず、おじさんテニスになってしまいました。一生続けたいと思っています。旅行は、車の運転が好きで、全て車で移動します。最近はず子供達が付いて来なくなつたため、妻と2人で楽しんでます。ここ2〜3年は、北海道中東南部、能登・金沢、伊豆、飛騨高山、伊勢志摩・那智勝浦等に行きました。今後はまだ行っていない、九州、四国、北東北に行きたいと思っています。ちなみに、単身赴任に伴う須賀川〜横浜間の移動、福山への帰省、旅行で年間2万キロ以上走っています。最後に、49年卒業の皆様、11月開催される東京同窓会に参加しましょう。私は昨年、平松先生からの誘いもあり初めて参加しましたが大変楽しかったです。昔に戻り楽しい時間を過ごしましょう。

平成
13年卒

杉原 杏璃 さん 杉原 杏璃 です。



杉原 杏璃 (平成13年卒)

■現在は、雑誌、テレビを中心にタレント活動をさせていただいています。

私の高校生活は、クラブ活動や友達と遊ぶ青春の日々とは少し違って、お仕事の東京と学校の行き来で、自分の夢に向かって歩き出していた時期でした。そんな中でも時間がある時には、何をやるわけでもなく仲のいい友達同士集まって、時間を忘れてお喋りをしてたことを思い出します。

早いもので、卒業してもう12年が経つんですね。少し前になりますが、約10年ぶりに同窓会があり参加したんですが、久しぶりに昔話でみんなと盛り上がり、とても楽しい時間を過ごすことが出来ました。そしてやっぱり昔からの地元の友達っていいなあってつくづく思いました。

お仕事の方では、この12年芸能界において様々なお仕事をさせていただきましたが最近では地元、広島県の観光キャンペーン等で全国に向けて広島県のおいしい場所やモノをPRする仕事もさせていただいています。東京で仕事をしていく中で、できれば自分が生まれ育った地元で何か仕事をしたい!とずっと思っていました。この仕事を通して、少しでも地元への恩返しが出来るように、これからも!もつともつと!広島県のすばらしさを伝えられるように励んでいきます。

私もいつの日か同窓会に参加できる日を楽しみにしております。



対談の前に軽く一汗かいてさすがに今も続けている3人、さまになっていますね。



対談の前に浦和の体育館で広江さんのクラブチーム「ツインズ」の皆さんの練習に参加して肩慣らしをしました。「ツインズ」の皆さん、ありがとうございました。

戦後の復興を図るには国民の体力づくりからと、いち早く福山で普及したバドミントン。6号で紹介しました恩師 本田慧先生のご主人、本田実さんらが指導に当たり広島県では福山市を中心※1に広まりました。※2 (福山スポーツ史)

福島 本日はお忙しい中、お集まり頂

きましてありがとうございます。先ほどは暑い中、対談前の練習までして頂いて(笑)。今回は私も含め6名のバドミントン部OBの方々にお集まり頂き、当時は語って頂きます。50年卒の福島が進行を勤めさせていただきます。では、自己紹介と、近況からお願いします。

向井 定年退職して10年。特殊な船会社にいました。緊張の連続で全国の原因を渡り歩いていまして、退職後はほっとして次の仕事を探す気は全くなかった。今は孫の守とテレビの番(笑)。

広江 金属加工の会社の嘱託で、その後はこの店を継いでランチタイムに手打ち蕎麦を出す予定で現在修行中。妻がやっているこの(あがらんしょ)は会津の方言で「どうぞお上がり下さい」と言う意味です。

山本 今年2月に65歳で定年になり、8月1日から介護の送迎の仕事をはじめます。銀行におりまして、お客さんのコネで次をアプルーチすれば良かったのですが、なかなか就職は見つかりませんでしたね。バドミントンはもう無理ですね、身体がギスギスしています。

佐藤 昨年の3月に千葉県成田市の

※1 本田慧先生の発見者として世界的に有名。

※2 昭和26年福山葦陽高校に福山市内唯一の体育館兼講堂が建設された。被爆した広島市には体育館がなく福山市を中心に広まった。

小学校教師を教頭で定年退職し、今は週3日の非常勤講師をしています。暇になり福山にいる当時ベアを組んでいた前田 巧君から広島のアジアの大会に出てみないかと誘われ、6月の田植えの手に伝いに帰ったときに練習して40何年ぶりに出てみたら優勝しました。(笑)。中国大会では3位に入賞しました。

ているのは私だけです(笑)。地元横浜で20年やっています。今年1月にアキレス腱を切ってしまった、さっきの練習もキツかったです(笑)。もっぱら最近ば地方大会に出て「商品稼ぎ」です。バドミントンに關係する商品で助かります。

中学は何をやっていました？

福島 新聞社系のフリーペーパーを発行している会社にあります。同窓会同様、まだまだ現役で頑張っています。今はバドミントンはやっていません。

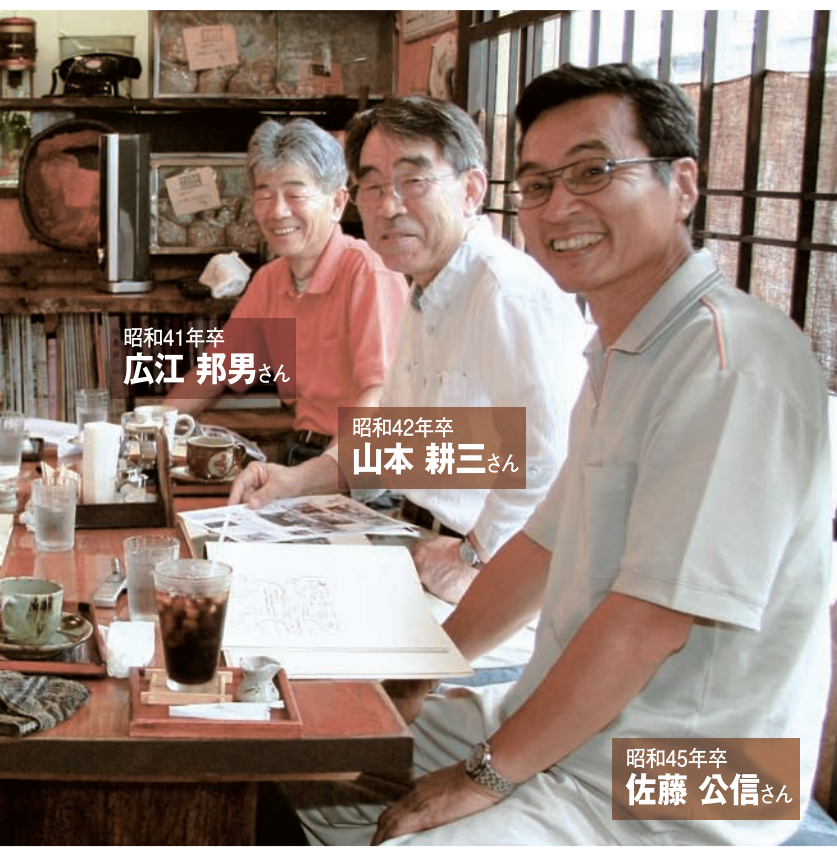
向井 卓球。飽きたからバドミントンをやった。

藤井 金属表面の処理薬品の製造販売の営業です。1年生はお城の下で、途中から今の校舎になりました。両方知っ

佐藤 私も卓球だった。

山本 テニスです、テニスはレベルが高いので対戦相手の少ないのがこれだった。即戦力として確か1年生の時から優勝した記憶がある。

山本 テニスです、テニスはレベルが高いので対戦相手の少ないのがこれだった。即戦力として確か1年生の時から優勝した記憶がある。



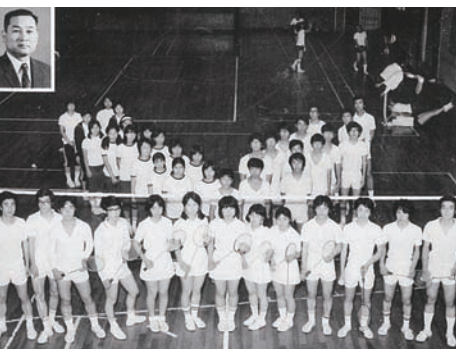
昭和41年卒 広江 邦男さん

昭和42年卒 山本 耕三さん

昭和45年卒 佐藤 公信さん



当時の体育館の前で。前列左から2人目が広江、3人目が多田稔和(40年卒)先輩。



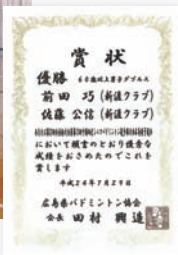
50年卒業アルバムより。前列左より4人目が福島。部員はかなり多かった。顧問は石井先生。



新しい校舎で、卒業アルバムもカラーです。前列右より3人目(59年 藤井)



シニアの部60歳以上男子ダブルスの部



全日本高校選抜バドミントン合宿。44年卒 大下和夫さんと前田哲男さん(右)(羽田空港)



卒業アルバムより。インターハイの会場となった体育館の前で、当時の顧問 石井先生、物部先生(故人)と(45年 佐藤)

福島 テニス。入学して気がついたらバドミントンのラケットを持っていた。
藤井 中学はプラスチック。なぜバドミントンをやったかは思い出せません。
広江 私は地学部、遺跡で土器を掘ったり拾ったりして(笑)。
当時はどうでした？

向井 入部してすぐラケット買いました、3,000円位だったかな。古いラケットが部室にあったけどイヤですぐ買った。オールウッドのやつ。

広江 先輩のラケットを折って弁償した、確か5,000円だった。今の人は道具から入るからね、20,000円位するよ。我々の頃やるとフレーム全体がスチールのものが出た。

佐藤 今はピンキリです。10,000円弱でも結構良いのがありますよ。私は1年の夏休みの前までシャトルに触らせてもらった記憶がない。

広江 1年は校舎の横で素振りだけで打たせてもらえなかった。

向井 我々はいきなりやったよ。先輩が「打つから返せよ」と言うてとことんやった、1年生の時から、恵まれていたんだね。でも、入口や窓を閉めて、夏は蒸し風呂だったよ。裏の八幡さんの石段の上り下り、ぎつかったね。

福島 八幡さんまで走って行き、石段登りや片足での石段飛び。1人で行った時に拍手を打って願を掛ける、そういうのが好きでした(笑)。

藤井 1年の練習は西ノ宮を走り、体



昭和36年卒 向井 総昭さん

昭和50年卒 福島 博行さん

昭和59年卒 藤井 成裕さん

○肩慣らしが出来ているのか、おしゃべりも軽やか。和気あいあいと進んでほとんど雑談！この後は楽しく宴会で盛り上がりました。

育館横でダッシュし、体育館ではラケットを持つより、踊り場で筋トレをやらされてました。
向井 我々の頃校内マラソンは、本庄から橋を渡って芦田川の土手をずーっと走った。どこまでいったんだろうなあ？
広江 向井さんの頃とは違いますね、あのマラソンも伝統だよ。バドミントン部なのに校内マラソンで10位までに入らないと怒られた。
佐藤 横尾の手前で折り返し、10キロ位あった？ 10位以内に入ると福山の駅伝大会にちよつと来いって出された、陸上部でもないのに(笑)。

広江 先輩部員が多くて練習はあまり出来なかったね。3つ上の清水正治先輩は勤め先が駅前の東武トラベルだからしよつちゅう来てた(笑)。1年生は古い体育館をいつも雑巾で拭かされていたなあ。狭くて2面しか取れなかった。
藤井 部員が少なくて後輩を鍛えなければいけないと、先輩風を吹かしていました(笑)。
山本 福山にいる同級の平靖行さんと組んでほとんど優勝できたけど、彼にはシングルでは絶対に勝てなかった。
向井 亡くなられた三谷豊治さん、あの人は伝説の人だよ。彼は1つ下だけど、絶対に勝てなかったな。常に手首を鍛えていた。本当に強かった。

あの時代—先輩、後輩対談

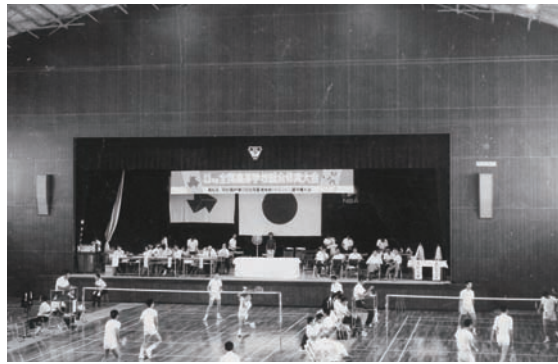
放談 バドミントン対談

20数年の時を越え、葦陽バドミントン部の思い出を語っていただきました。

○6名で2時間の対談を3頁に収めることは到底不可能でした。「対談」改め「放談」とさせて頂きます、悪しからず。

後列左端が山本耕三さん、4人目が平靖行さん。

Badminton



山田校長の案内で高松宮さま、喜久子さまが会場で試合をご覧になられた。

新設された葦陽高校体育館が昭和43年度インターハイのバドミントン会場になる。葦陽生徒は役員やスタッフとして参加。

※3 山陽女子高等学校3年の時、高校総体で初優勝。日本女子体育大学2年だった1969年、全英オープン選手権女子シングルスで初優勝を果たすと2年連続を含む計4度優勝。世界一に4度君臨したことになる。

広江 2年の時あの歌手の新沼謙治さんの亡くなられた奥さんの湯木博恵さんが岡山から来られたが、まったく歯が立たなかった(笑)。

山本 湯木さんは同級だったかな、山陽女子から日本女子体育大学に行かれ全英オープン選手権でシングルスで優勝、世界一に4回なった女性ですよ。

佐藤 私たちの時は広島で開催されるインターハイの強化指導で来られ1級上の、我々の時のホープだった大下先輩とシングルでやられたんですが女の人でこんな人がいるんだ!!。まさに赤子の手をひねるって感じでしたね。どこへ打つても軽々と返してくる。何だこの人は(笑)。

藤井 私もプレーを見ました。福山の体育館でのデモ試合で、私の先輩は1点も取れずに凄かったです。

向井 あの頃合宿もやったよ、だれが飯を作ったのかわか?

広江 私はラグビー部のお陰で合宿はなかった、なぜか...(笑)。

佐藤 私らは丁度インターハイの会場になるので5月と夏にやって家庭科室に泊まり込んだ。豊田さんというコーチが毎日来られた。清水さんや現福山市バドミントン協会会長の多田稔さんもよく来られた、広江さんも来られましたよ、覚えています。

広江 えっ、覚えていない(笑)。

藤井 1年の時は柔道場の畳を敷いて、料理は引退した3年生の先輩が作ってくれましたよ。コーチというのは

先輩だけでしたね。
福島 顧問の先生方はプレーはされませんでしたが、熱心でしたね。遠征の手配なんか随分やっていたいただきました。

ところで成績は?

向井 中国大会までで会場は倉吉だった。
広江 戦績? 覚えてない、すぐ負けたから。顧問の先生は広住先生と林先生で広住先生は中国大会の時一緒に行っただけ、電車の中でワンカップとちくわで一杯...(笑)。

佐藤 インターハイには行っただけあまり強くなかったです(笑)。メイン会場の葦陽高校体育館は出来たばかりできれいでしたよ。

藤井 行きましたよ、それなりです。
山本 私はけつこう賞を頂きました。優勝旗は5、6本あるかな。北海道の大学に入ってもやりましたがベスト8が最高だった。

福島 私のことは別にして、同期は比較的強かったですよ。2年の時から先輩を差し置いて中国大会やインターハイに行ったメンバーがいました。2年の時付き添いで行ったインターハイでは全国レベルのすごさを感じて帰りました。

ここらで女性の話を...

福島 女子はどうだったんですかね?

広江 どの高校がやってたかな? 広島には鈴峯女子高校がやってた?

佐藤 私の2つ下の妹が門田(現市立福山高校)でバドミントンをやっていた

から。それから三原にもあったと思いますが...女子は広島県では相手があまりいなかったけど、男子も北川高校と電波高校の3校だけだった。

福島 女子の話は出ませんね。
広江 女子の先輩達が観へ海水浴に連れて行ってくれたのを思い出さなあ、関係ないか(笑)。

向井 今度、対談は女子とのミックスマッチでやらなければダメだな。あれだけ女子がいたのにどこ見ていたのかわか?

みんなでやりませんか?

広江 福島さん、バドミントンを復活して正月にやろう!

藤井 福山の「初打ち」はOB1年生が幹事で案内を出し、シャッフルしてチームを作って現役と試合します。その後はそれぞれの学年で新年会なんかやるんです。

佐藤 東京でどうしても「初打ち」をやりたいのなら、千葉の佐倉まで来て頂ければ何とかしますよ(笑)。

広江 昔やってた人もこれからやろうと思う人も地域の交流や、健康のため、いい汗かいておいしく飲む。目的は何であれ、そこそこやればバドミントンは楽しい! 大いに親睦をはかりましょう。

福島 ただの昔話でこのバドミントンOB6人の対談(放談)を終わります。

今日は皆さん本当にお疲れ様でした。お読み頂いた皆さん、あの頃のあなたを思い出されたでしょうか?



福山スポーツ史

スポーツの普及や発展に寄与することを目的に設立された(公財)天野スポーツ振興財団の常任理事で事務局長の44年卒 前田哲男さん。

福山情報

2016年の福山市制100周年に向け、市体育協会が発刊した「福山スポーツ史」上巻。

福山の葦陽高校バドミントン部のOBは、今でも正月の「初打ち」やそれぞれの趣味に、先輩後輩の絆を越えて親睦をはかっています。歴史と伝統と思い出をからませながら。

「中国高等学校体育連盟バドミントン専門部50周年記念誌」当時の試合記録がすべて掲載してあります。

福山の情報および写真は、前田哲男さんを通して(公財)天野スポーツ振興財団より提供して頂きました。

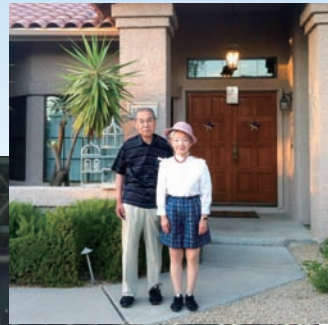
去

る六月六日、家内と共にロサンゼルス空港経由でアリゾナ州フェニックスに向けて成田空港を飛び立った。久々のアメリカ行である。

ロスまでは九時間五十分(帰路は十一時間三十五分)の飛行で定刻に到着。入国審査と通関手続きを済ませて出口まで進んだところで長男が出迎えてくれた。彼とは、出張での帰国以来三ヶ月ぶりの再会で元氣そうだ。ここからは三人一緒の行動だと思つた途端、急に緊張がほぐれた。

そこから国内線に乗り継ぎ飛ぶこと一時間十五分でフェニックス空港着。早速、駐車場まで歩いて長男の車に乗り、高速道路(無料)を走行。その途上で目にした遙か彼方の地平線に強烈な光を放って沈む夕日に感動した。そして、次の瞬間対向車線に目をやると、走る車の八割くらいがトヨタとホンダ(若干トヨタの割合が大)の日本車。アメ車(GM、FORD等)は散見される程度。これでは、日米の貿易摩擦の対象となるのも無理からぬことだと納得した。十分で高速を降り、車は住まいに到着。留守番の三人が玄関に居て笑顔で迎えてくれた。この三人とは日本を出て三年ぶりの再会である。挨拶もそこそこに、弟

長男の自宅玄関前で



『愛孫との再会』
—アメリカ紀行

前 福山葦陽東京同窓会会長
来山 和義 (昭和28年卒・神奈川県 厚木市)



ダイヤモンドバックスのホーム球場で。赤いTシャツのロゴの中心部分はラトルスネーク(ガラガラヘビ)の頭です。

(七歳)と姉(十二歳)の二人の孫を、家内と共に、交代で力強くハグ。まさに感涙を抑え難い瞬間だ。二人とも、すっかりアメリカ社会に溶け込み順調に成長している様で、嘲笑を覚悟のうえで言わせていた

は、いずれも広い敷地に芝生の庭を持ち、行政指導の普及で、屋根瓦の色(淡い朱色)も壁の装いまでも統一され整然としている。

電線は地下に敷設され、元来、雨の少ない土地柄であるが水は豊富。どの家にも裏庭にはプールが設けられている。インフラの完備には驚いた。この時季の気温は四十二、三度、湿度五%、日陰に居れば暑くはない。

さて、滞在中は、孫の通う学校が夏休みということもあって、連日、孫達と一緒に、大リーグの野球観戦や食歩きといろんな所に出掛けて、歴史認識を深め検証すると共に異文化に接し、買物等も楽しんだ。

私は、かねがね、移民国家の故か、はたまた、多民族国家の故か、または両者の相乗効果なのか、悠然としてスケールが大きく陽気、レディーファースト等の伝統を頑なに守り通し、公益優先・法支配の国として、豊かな精神文化を育むアメリカ社会に深い関心を寄せてきた。

ただれば、姉は慎み深く沈着冷静、弟は力強く振舞う姿に接して、それだけで私共の訪米の目的は達し得たとの思いであつた。

そして、翌朝、目にした住宅街の光景

大方のアメリカ国民は、日常生活の中での人との触れ合いにおいて、礼節をわきまえていて、タイミング良く「イクスキューズミー」、「サンキュー」という言葉を発し、また、風潮として、人の有り様を羨んで嫉妬することなく、ひたすら自省して自らを律しながら努力を続けて自己の志を遂げようとする真摯で前向きな強い心意気の集束こそが大國アメリカの底力であると確信するに至った。

日本の若者は極力海外に出向いて世界を目を見開き、己を知つて精進願いたいものだ。

帰国当日は、朝早い出発であつたため二人の孫と言葉を交わせず残念であつたが、それが却つて未練を断ち切つたのだと思う。

帰国すれば、我が家からさほど遠くない家で二歳半の孫(二男の一人娘)が私共の帰りを待つてくれている。

ともかく、今回も、広く深く見聞し、見識を更に充実させることもできた貴重で有意義な十日間の旅であつた。

私共の両親や祖父母等から慈しみを受けて育ててもらつた幼少の頃に思いを馳せる時、今、かつてのそれらの人々と同じ心情で三人の孫を気遣い、生き甲斐としながら元氣で生きていられることに感謝する日々である。

このうえは、父母の意思を継いで世の中に貢献すべく努力し、天の大神に報いたい。

ニューヨーク留学



やこ
高石 弥子
(ニューヨーク州立デルハイ校 進学)
(平成25年卒)

海外に興味をもつようになった理由、実ははっきりとしたものはありません。ただ、幼い頃から音楽は洋楽、映画は洋画、そして憧れていたのはハリウッド女優でした。人見知りの私ですが、なぜか外国人の方には自分から話しかけたり、側に行ったりしていました。その時「もっと英語が話せたらいいのに、話したいことはたくさんあるのに…」と、もどかしく思っていました。そして、必然的に外国の文化・歴史にも興味をもつようになり「もっと外の世界を知りたい、見たい」と海外に目を向けたことが今につながっていると思います。

高校に進学してすぐ卒業後の進路を問われました。私は正直「まだまだ挑戦してみたいことはあるし、興味があることがたくさんあるのに決められないよ…」と思っていました。この頃から少しずつ、私が本当にやりたいことは何かを探し始めたような気がします。幼い頃から様々な習い事をしていたので、常に自分の前に目標があることは当たり前でした。ただ、がむしゃらに取り組む毎日だったの

で、言い換えれば「自分には何が向いているのか、何をしたいのだろう」なんて悩んだこともありませんでした。そのため、高校に進学してふと我にかえったとき、改めて自分の将来について悩みました。私はいつも、何か新しいことに踏み出す時「ワクワクする? 楽しくてしょうがない?」と私自身に問いかけます。周りの目や学歴、単なる安定を求めるのではなく、時間を忘れるくらい無我夢中になれることを続けることが私にとって、一番幸せなことなのだと思います。

「焦る必要はないし、たくさんある選択肢の中から見つけ出せばいい」そう考えるようになりました。私は、学校のテストでよい成績を残す。そして、有名大学に進学し大企業に就職すること=良い人生、大切なこととは思いませんし、そうなりたいとも思いません。ですがもし「選択の幅を増やしたい・自分の視野をもっと広げたい」と思ったとき、ある程度の成績が必要とされるなら「自分の目標のために頑張るしかない!」こう思っています。私は3年間、自分なりに一生懸命過ごしてきたつもりです。そして、自分のやりたいことを続けるためには、もちろん努力が必要です。海外の大学へ進学することがゴールではありません。ここからが本当のスタートであり、勝負の時だと思います。進んでいけば、でこぼこ道も高い山もきっとあります。それでもひたすら進み続ける根性と勇気をもって、私は自分の手で夢を掴みにいきたいと思っています。

今の私があるのは、家族、友達、先生、たくさんの方に応援していただいたからです。どんなときも感謝の気持ちを忘れないこと。人として、もっと成長できるように志を高くもち、努力していきます。

OBによる 出張授業と 講演会

今年度は、東京同窓会から講師の招致をさせていただき講演会並びに出張授業を実施いたしました。「賢者は他人の経験から学ぶ」という言葉がありますが、生徒にとっては先輩からのメッセージであり、すばらしい機会を与えていただきました。多くの学びがあり、また高校時代の記憶に残る経験になったと思います。東京同窓会の皆様には御礼を申し上げますとともに、今後とも御協力と御支援をお願いいたします。

校長 藤井悦子

1

石井義信氏 講演会 教育講演会

「人生の不思議～あるサッカーマンの話～」



石井 義信 (昭和32年卒)

5月11日(土) 研修部主催のPTA教育講演会が開催されました。

講演会では、石井先生の生い立ちや有名サッカー選手との関わり合いなどの話がありました。話を通じて、自立をする・挨拶をする・関わった人々を覚えておくなど、社会を生きるのに普遍的なことを生徒に分かりやすいように教えていただきました。

●教育講演会の感想 (生徒会長 村上 健介)

私は石井先生が葦陽高校の卒業生で、たくさんの素晴らしい経験をお持ちと知り、今回の教育講演会をとても楽しみにしていました。石井先生は自身の人生を教えてくださいました。その中で私が特に印象に残っている言葉が、「親や、先生がどうではなく、自分でやってみると楽しい。」という言葉です。

私の夢は警察官になることです。公務員は最近人気が高い職業で、就職は容易なことではなく、諦めかけていたのですが、その言葉を聞いて、改めて自分の好きなことを職業にしたいと思いました。石井先生の言葉を糧に頑張っていきます。



花束贈呈

2

工学博士 来山征士氏 出張授業

「遅くはない、今からやれば目標は達成できる。」



来山 征士 (昭和36年卒)

6月24日(月) 国公立大を目指す理系の生徒に出張授業が行われました。

50名ほどの2年、3年の理系の生徒さんに国公立大学の受験勉強の話、理系の進路について、社会人になってどんな職業に就きたいか等の話を、ご自身の体験を基に、分かりやすく授業を行っていただきました。

●生徒謝辞の骨子 (生徒代表 田浦 直也)

私はこの授業の中で印象に残ったことが2つあります。まず、「遅くはない、今からやれば目標は達成できる。」という言葉が印象に残りました。今まで、私はこのままでいいの不安で、本気で勉強に取り組みませんでした。先生のおっしゃった言葉によって、自信を持ってこれから精一杯頑張ってみようという考えに変わりました。また、「授業で分からないことがあれば恥ずかしくせずに質問する」という言葉によって分からないことをそのままにするのではなく、積極的に質問してみようという考えに変わりました。他にも新たに気付かされたことが多くあり、自分の進路目標に向けて頑張ろうと言う気持ちになりました。



いつもと違う授業に興味津々





今もお元気な恩師よりのお便りをご紹介します。



葦陽高校37年卒 古希同窓会 小林達治先生、卒業生7人と



学園長として
頑張っています



自由学習で好ましい友人づくりの出来る学校です。
福山駅から南へ1キロの近さ、約300人の生徒が在学中、いつでも見学に来て下さい。明るい顔が見れますから。



社交ダンスをやりなさい

寺地 亮二 先生

[社会 昭和35年~43年]

昭和23年に府中中学校を卒業後、広島高等師範学校に運よく入学できて、卒業まで4年間寮生活だったが多くの友人を得られたし、アルバイトも良くできた。学生時代に流行した『立てばパチンコ、座れば麻雀、歩く姿はダンス調』の表現は、当時の若者たちの生き方を評していた。自分もそうだった。学校に行く途中に社交ダンスの教室があったので見学させてもらった。先生が話しかけてくれ、尾道出身、自分が府中出身とわかって、すぐに研究生として面倒を見て頂いた。
今でも社交ダンスを健康保持のため、毎週どこかでレッスンしています。高校の指導要領でも「社交ダンス」を体育の授業で教えられるようになりました。フオーク・ダンスより気楽にやれると思います。イギリスでは、パブリック・スクールで、エチケツト指導の教材になっているようです。ダンスも技術に溺れず、正しい姿勢でスマートに歩いて仕事に買い物に出掛けて下さい。
【東林館高等学校のこと】
東林館高等学校は、通信課程普通科高校で、不登校生と呼ばれる生徒にも高等学校の卒業資格が得られるよう学習内容を設定して、3年以上かかってよいから、家庭学習と学校での学習とカウセリング、担任の指導を受けレクレーションやゲーム、校外活動を通じて自由学習で好ましい友人づくりの出来る学校です。



24・25年卒
同期会



51年7月 修学旅行 飯盛山

53年の生徒の修学旅行は東北自動車道路が開通した年で、思い切って遠方にとの行程でJRで郡山まで、バスツアーで五色沼経由磐梯高原で泊、翌日はNHKの大河ドラマ「八重の桜」の飯盛山、鶴ヶ城、更に野口英世記念館を見学、磐梯熱海で泊、3日目は土湯峠、浄土平、刈田岳を経、秋保温泉で泊、4日目は東北自動車道路経由平泉、中尊寺、松島湾巡り塩釜を経、松島で泊、最終日は東北自動車道路宇都宮経由東京へ、JRで21時福山着という強行日程でしたが全員無事で随分楽しい旅でした。私は傘寿を越え、家の周辺の畑仕事に何とか元気で精出し晴耕雨読の生活をしています。教え子達も時折り訪ねて来て昔話しに花を咲かせています。
余談ですが、葦陽高校最初の男子の25年卒の書家の大染華雪さんや校歌の作詞作曲された故人友竹正則さんは中学時代の同級生です。私は葦陽高校の卒業生ではないのですが、24・25年卒の人達の仲間に入れて頂き、同窓会後の2次会に毎年参加しています。最後に福山葦陽東京同窓会の今後の益々のご発展を祈念いたします。



自宅玄関前で

坂本 博 先生

[国語 昭和40年~53年]

福山葦陽高校の国語科の教師としてお世話になったのは昭和40年から53年までの13年間でした。当時の先生方には論客が多くて自由闊達な議論が職員会議などで展開されていました。自由な雰囲気にも包まれ、同年代の先生方も多く私としては最も充実した時期だったと思います。只、誠之館中学校時代の恩師が多数おられたので、生徒の頃の悪童はおとなしくしていました。葦陽高校の生徒は総体的に真面目でおとなしく勉学にスポーツに励んでいました。冬場になると日当たりのいい場所は女子、男子は少数で固まりあっていたことも多く見受けられました。現在では考えられないことですが、生徒の生活指導会議が年間一度もなかったこともありました。クラブ活動はバドミントン部の顧問を勤めました。県東部ではバドミントン競技が割合盛んで男女団体戦、個人戦で葦陽高校は何度も優勝しました。昭和43年広島インターハイのバドミントン会場が葦陽高校に決まり、昭和42年に石川県金沢市、43年の福山市、49年の佐賀県嬉野町でのインターハイには監督として参加しました。全国的なレベルには及ばなかったがよく善戦しました。創立100周年記念の同窓会の当番幹事は、私が担任した44年、49年の生徒達で大変だったと思いましたが盛大裡に無事大役を果たしてくれました。44年の生徒達は2年3年と持ち上がりだったので私のクラスは3年間同じメンバーで少し可哀想な所もあったが和気あいあいの雰囲気でした。
53年の生徒の修学旅行は東北自動車道路が開通した年で、思い切って遠方にとの行程でJRで郡山まで、バスツアーで五色沼経由磐梯高原で泊、翌日はNHKの大河ドラマ「八重の桜」の飯盛山、鶴ヶ城、更に野口英世記念館を見学、磐梯熱海で泊、3日目は土湯峠、浄土平、刈田岳を経、秋保温泉で泊、4日目は東北自動車道路経由平泉、中尊寺、松島湾巡り塩釜を経、松島で泊、最終日は東北自動車道路宇都宮経由東京へ、JRで21時福山着という強行日程でしたが全員無事で随分楽しい旅でした。私は傘寿を越え、家の周辺の畑仕事に何とか元気で精出し晴耕雨読の生活をしています。教え子達も時折り訪ねて来て昔話しに花を咲かせています。
余談ですが、葦陽高校最初の男子の25年卒の書家の大染華雪さんや校歌の作詞作曲された故人友竹正則さんは中学時代の同級生です。私は葦陽高校の卒業生ではないのですが、24・25年卒の人達の仲間に入れて頂き、同窓会後の2次会に毎年参加しています。最後に福山葦陽東京同窓会の今後の益々のご発展を祈念いたします。



藤井悦子校長



赤松治美同窓会会長



総会



会長から花束贈呈



家田荘子さんの記念講演



宇田成徳 近畿支部長



高田 稔 東京支部長



葦陽高校吹奏楽部の演奏



懇親会は恩師小川隆通先生の乾杯から



当番幹事 豊田健路さんのお礼の挨拶



東京支部 寄贈副会長の「あしび」紹介



ライクマイヌツのジャズ演奏



会場風景

恒例の記念講演では、講師に作家：高野山真言宗僧侶 家田荘子氏をお迎えし講演がありました。映画『極道の妻たち』のエピソードや裏話など、また週刊誌記者時代の女性記者としての奮闘など、貴重なお話にビックリしたり、同感したり、日常ではないお話に時を忘れる思いで感動いたしました。小休憩の後、懇親会に入り、オープニングは福山葦陽高等学校の吹奏楽部の演奏にはじまり、ジャズの演奏など賑やかに、和やかに懇親を深めることができました。

平成25年度福山葦陽同窓会を終えて



実行委員長 昭和51年卒 藤井洋光

■平成25年度同窓会の私たちのテーマは、「原風景との出逢い」あのころの私たちが」と題しまして一年間取り組んでまいりました。

悠久なる時と茫漠たる空間の中で同窓生の皆様と巡り会えたという不思議なご縁の原点は、福山葦陽高校という存在にあります。私たちにとって父や母の世代から息子や娘のような年代の方々までが一同に集まり旧交を温め世代を越えて仲間として会話を愉しみ、思い出を共有すること、これぞ同窓会冥利に尽きるのではないのでしょうか。

私たちは、この出逢いに感謝し、そして大切にしながら共に発展していきたいと願っております。これからも葦陽同窓会の更なるご発展をお祈りいたします。

来年の同窓会総会に向けて



次回総会実行委員長 昭和52年卒 神原豊司

■今年度の同窓会総会もとても盛会となりました。これもひとえに実行委員長の藤井

会場で多くの方々より「あしび」にカンパを頂戴致しました。心より厚く御礼申し上げます (写真提供：2013福山葦陽同窓会実行委員)



大先輩から開原副市長に一言



恩師井上先生を囲んで45年卒



赤松会長と30年卒の皆さん



恩師の先生方。藤井校長はモテモテです



佐々木副会長と37年卒の皆さん



最高齢者は15年卒 炭田富子さん



校歌斉唱



来年の当番幹事 52年卒の皆さん

平成25年度 福山葦陽同窓会 総会



平成25年度実行委員一同 (昭和51年・56年・平成2年・12年・19年卒)



平成25年度 同窓会総会冊子

原風景との 出逢い

～あの頃の私たち～

平成25年度福山葦陽同窓会総会 2013.6.16

洋光さんをはじめとします当番学年の先輩方、同窓生の皆様方の情熱とご努力の賜物と思います。

私たち来年度の当番学年もその心意気を継承し、気持ちを一つにして取り組んで参ります。福山葦陽高校も3年後には創立110年となります。

県立高等女学校に始まり、福山南高校を経て現在の福山葦陽高校に至ります。同窓生も1世紀を超えた世代に亘っており、年代を超えた同窓生との繋がり、環が広がることは素晴らしいことだと思います。

『あの人も葦陽の同窓生だったんだ』と環を広げるきっかけの場の一つとして提供できればとも考えております。

来年の総会に向けて一からのスタートになりますが、準備段階から環を広げながら楽しく進めていきたいと思います。そして、私たち当番学年の色が少しだけでも出せればと考えています。

来年の同窓会総会・懇親会は、平成26年5月25日(日)を予定しております。会場は今年と同様に福山ニューキャッスルホテルです。

「この世に生まれ、生きて、生かされて...」
とあと一歩前へ踏み出したいあなたへ...
講師 家田 莊子 氏

近畿 支部

2年に1度の同窓会

昨年は開催年で、9月30日(日)に開催いたしました。開催場所は、小中節夫さん(S30卒)が長年の人脈を生かされてホテル阪神10F『ボールの間』を予約してくださいました。交通の便に恵まれたJR福島駅から徒歩1分の所です。

当日、赤松同窓会長はハワイ旅行から睡眠不足の中を直接馳せ参じて下さいました。関東方面から、また福山・広島方面からも多数ご参加頂き、総合司会は、南 義弘氏(S39卒)、アシスタント佐久間典子氏(S31卒)の絶妙のコンビで会が盛り上がりました。

今回のビッグイベントは元全日本サッカー監督 石井義信氏(S32卒)の講演です。ご多忙の中、台風で来阪が心配されましたが無事に出席下さいました。帰りは台風で新幹線が止まってしまい大阪でお泊り頂きました。講演は、葦陽高校のサッカー部の思い出から始まり、東洋工業の球ひろいからレギュラーに上り詰められたクリエイティブな練習の取り組みから、全日本の監督時代のお話と内容の濃い講演で、参加者全員楽しんで聞かせて頂きました。サッカー部のOBの方たちや石井氏の同級生が福山方面から多く参加下さり、大変楽しい同窓会となりました。

また石井氏にご無理願ってサイン会も盛況で、多くの方が色紙を希望されました。すこし残念だったことは、当日になって台風接近で参加が出来なかったメンバーがいたことです。

近畿ブロック同窓会会長 昭和32年卒 宇田成徳



1986年～1987年 日本代表監督 トレーニング中

広島 支部



同窓会の風景

『癒し』

広島で生活する福山葦陽高等学校の卒業生を中心に「楽しく交流をはかること」を目的とした、福山葦陽広島同窓会(第10回)を平成24年9月15日(土)に開催しました。当初、会場はひろしま美術館の庭園において、その落ち着いた雰囲気の中で心を癒しながら行う予定でしたが、開始時間間際に雨が降り始め、止む無く館内にて実施することとなりました。庭園で開催することができず少し残念でしたが、今年のアトラクション「フラダンス」を実施し、そのゆったりとした踊りにより、心を癒してもらうことができました。

年に1回の開催ですが、参加したみなさんは近況報告や昔の話などに花を咲かすことができました。

昭和58年卒 兼田直樹

追伸

今年(H25)の4月19日～5月12日にかけて、旧広島市民球場跡地とその周辺で、「第26回全国菓子大博覧会」が開催されました。入場者数約80,700人と、大変多くの人出で賑わい、お菓子を知る・見る・食べる・買うを楽しむことができました。



日本最後の清流

「四万十川」に憧れて

昭和43年卒 佐伯達雄（高知県・四万十市）



の名前は全国に広まり、約140万人の観光客等が毎年訪れます。ここでいう

「清流」とは「水

が壊れないよう欄干の無い橋のことを「沈下橋」と呼びます。本支流合わせて47本あり、観光名所になっており、子供たちの遊び場でもあります。また集落同士をつなぐ生活道なので、欄干の無い狭い橋上を車が通るのです。私は、初めて沈下橋上を運転した時、恐くて手が震えたことを覚えています。

四万十の生活も10年目を迎えました。「ターン生活はどうですか?」と、よく聞かれるのですが、私は「東京と四万十、五分五分です」と答えます。東京の素晴らしい景色は否定できません。一方、青い空・緑の山並み・澄んだ川、この四万十川の景色に今でも日々感動しており、田舎生活を満喫しています。

高校を卒業して45年。その間、東京同窓会に二度出席しただけで皆さんにご無沙汰しています。また、高校の吹奏楽部OB会からは、今でも毎年ご案内を頂くのですが、仕事と重なり出席できず申し訳ない次第です。

東京の大学を卒業後、東京の広告代理店に30年間勤務していましたが、30年を区切りに「東京を脱出し、もっと自然に近い所で生活したい」という思いから、平成16年に退社しました。丁度その時、高知県の中村商工会議所が専務理事を全国公募しているニュースをテレビで見ました。高知県には、それまで一度も足を踏み入れたことも無かったのですが、四万十川には是非行ってみたいと思っていたので、妻と一緒にすぐ下見に出かけたのです。そして、四万十川に感動し、このような所で生活してみたいと応募した次第です。結果、運よく採用され、それ以来四万十市中村の街の活性化に取り組んでおります。しかし、地域経済は疲弊したまままで10年目を迎えた今も走り廻っている状況です。

四万十川は、高知県中西部を緩やかな勾配で、逆S字を描くように蛇行しながら多くの支流を集め、四万十市下田で太平洋に注ぎこむ、全長196km、四国内で最長の1級河川です。

昭和58年のNHK特集の中で「日本最後の清流」と紹介されて以来、四万十川

質の良さもさることながら、多くの魚がおり、自然が保たれ、住んでいる人たちが密接に関係している川」と紹介されています。だから今でも、「火振り漁」「しばづけ漁」など四万十川独特の漁法が残っており、川エビ、鮎、天然ウナギ、青のりなど四万十川の幸が味わえるのです。

四万十川の支流は、30km以上のものが6本あり、その他中小の河川を合わせて319本が四万十川に注がれています。そして、四万十川流域面積の83%が森林です。台風時には、この流域の雨が支流から一斉に本流の四万十川に集まるのです。四万十川は別名「暴れ川」とも呼ばれ、平常時は澄んだ水が、濁流になり、山から出た大木が怒涛のごとく流れて来ます。例えば、佐田地区の川幅は約300m。ここに架かっている佐田沈下橋は平常時水面から約10m位の高さですが、この橋が全て見えなくなる程の水量になるのです。10年前、私はどうしても説明だけではこの水量の話が理解できず、初めての台風時にこの暴れ川を見た時、本当に驚いたものです。

この泥水が、2〜3日すると笹色の「笹にざり」になり、5〜6日すると元の清流に戻るのです。またこの濁流は、山の枯れ木や、ごみなどを一斉に洗い流す役目もあり、四万十川を守る自然の力の偉大さを私を感じます。

大水の時に水面下に沈み、流木等で橋

四万十川より



佐田沈下橋平常時(左)と台風時(右)



1000万本の自然の菜の花



沈下橋

少し前の記憶を蘇らせて

福寿会館は福山城天守閣の北東に位置しています。海産物商で財を成した安部和助氏の別邸として昭和前期に建てられました。昭和前期の優れた建築様式を残した代表的建造物として平成9年7月に洋館が、続いて平成24年2月には本館・西茶室・南茶室・西蔵・東蔵が国の登録有形文化財に登録されました。戦後、GHQには本館・西茶室・南茶室・西蔵・東蔵が国の登録有形文化財に登録されました。戦後、GHQに接収されていましたが、昭和48年までは売却されて渋谷昇氏が取得し、昭和28年渋谷氏から福山市に寄贈されました。昭和48年までは結婚式場として使用されましたが、現在は展示会および研修会・会議など多目的に利用されています。建物から見える福山城を借景とした日本庭園の眺めとともに市民の憩いの場となっています。



◆本館 玄関

お城の東にある入口の坂を登ってくると正面に本館玄関があります。檜皮葺(ひわだぶき)拝殿造り唐破風で、天井の一部は格天井の数寄屋造り、大変重厚な造りです。



◆洋館

屋根は鋭角の切妻で瓦葺き、外壁はモルタルで柱や窓にはイタリア・ルネサンス風の装飾が施されています。市の迎賓館として活用されています。



◆南茶室

南茶室は望城亭(ぼうじょうてい)と呼ばれ、その名は表千家お家元よりいただいたもので、数寄屋造りの巨匠といわれた京都の笛吹嘉一郎氏が精魂込めて造ったものです。



◆洋館 喫茶室

洋館の1階には前室を挟んで、配膳室とロビー、その奥には食堂があります。今は「茶処ばら」としてくつろぐことができます。郷土料理のうずみも楽しめます。



◆本館 大広間 広間

大広間は、21畳間で、正面中央に9尺の床、大広間の続きに14畳の広間があります。障子越しに眺める庭園は素晴らしい、時を忘れさせてくれます。



◆母校、南高校葦陽校舎発見

玄関を入り見上げると大きな額があります。昭和27年に画かれた福山市内の鳥瞰図にはお城の下に南高校葦陽校舎が画かれていました。当時天守閣はまだありません。



◆洋館 多目的室

洋館は、福山市の迎賓館として遠く海外からのお客様をはじめ来賓の接待に使用されていました。2階に通じる階段にも当時の貴賓室の雰囲気を感じさせてくれます。(資料提供：公益財団法人ふくやま芸術文化振興財団)



◆火灯窓から見ると

大広間の火灯窓から障子を開けて庭を眺めると、目前にそびえる福山城天守閣の勇壮な姿は絶景です。



◆大きな金庫？

西蔵の金庫の様な大扉の向こうは以前結婚式場として使用されていました。思い出された方もおられるでしょう。



福山市

福寿会館

●福山の迎賓館として、そして結婚式場として多くの幸せがここからスタートした。今は登録有形文化財



(公財)ふくやま芸術文化振興財団
福山城博物館学芸員
館長 鐘尾光世さん(37年卒)

福山市制施行100周年(2016年)、築城400年(2022年)がやってくる。福山の伝統・文化をもっと知ってもらうため、史跡福山城・福寿会館の保存整備、展示会の開催など大いに進めていきたいものです。副館長杉ノ原泰則さん(45年卒)とペアで頑張ります。

庭園は回遊池式で、京都の作庭家・西村氏の指導により10年の歳月を費やして造られたと言われています。全景に広がる松の緑、そして福山城の借景、さらには春にはツツジ、秋にはモミジ、夏には青葉、冬には梢を渡る風の音や四季の小鳥のさえずりに心の豊かさや季節の移り変わりを感じさせます。

古い記憶の中に「**軽便鉄道**（ともてつ）」を呼び起こすことができる方はどの位おられるのでしょうか？ 福山～鞆までをバスではなく「**ラッキョ自動車**」の愛称で呼ばれていたあの小さな蒸気機関車です。詳しい歴史や路線図はさておき1913年（大正2年）から1954年（昭和29年）まで、沿線の農村、漁村に買い出しに出掛ける人達、鞆の浦への観光や海水浴客の大切な足であった。しかし、時代の移り変わりとともに消えていった「ともてつ」の勇姿は現在でも多くの人々の記憶のなかに生き続けています。懐かしいあの頃の福山。

（写真・資料提供：鞆鉄道株式会社）



三分坂 ●

昭和6年、山陽線の福山駅に乗り入れた頃からは、鞆の浦への観光客や海水浴客の大切な足としても活躍しました。現在の福山市田尻町にある三分坂は勾配のきつい上り坂。馬力の少ない鞆鉄道の機関車は坂を登るのにひと苦労でした。そこで満員のときは何十人かの乗客が車を降り、坂の上まで歩いて登ったり、運転士や車掌、乗客が全員降りて、みんなで列車を後押ししながら坂を登って行ったという話もありました。現代では考えられないこの光景、鞆鉄道の懐かしい歴史のひとつです。



● 路線バス

昭和29年当時の福山～鞆間路線バス車両

● ラッキョ列車

福山駅で国鉄列車と並ぶ鞆鉄軽便鉄道「ラッキョ列車」（昭和10年代頃）機関車の煙突の形よりラッキョの愛称をうけてラッキョ自動車と呼ばれていた。福山～鞆間、約12.5kmをおおよそ40～50分で結んでいました。開業当時の運賃は22銭。現在の物価に直すと1200円くらいになります。鉄道開通以前、鞆と福山の間は徒歩で3時間以上掛かっていましたが、鉄道の開通によって、時間が大幅に短縮され、地域の貴重な交通手段となりました。

● 葛城駅

葛城駅（水呑駅と田尻駅の間）のたたずまい



鞆鉄道蒸気機関車
（ドイツ・アーンホルド Junker 社製 通称ラッキョ自動車）



● 福山駅前 ●

昭和25年頃の福山駅前風景。昭和27年3月バスへの転移により、鉄道線の旅客数が大幅に減ったため、昼間の列車運行を取り止め、朝夕のみの運行に切り替える。写真のバスセンターは以前は天満屋があったところ。



● 田尻の海岸を走るラッキョ自動車

農作業の手を休め、お名残列車の最後の姿を見送る沿線の人達。



● お名残列車

戦争が終わって4～5年も経つと、世の中も落ち着きを取り戻し、鉄道に代わってバスを利用する人が徐々に増えてきました。鞆鉄道でもついに昭和28年、鉄道路線の廃止が決まり、翌年、廃止となりました。昭和29年3月、「お名残り列車」の運転を最後に、「ラッキョ自動車」は福山の町から消えましたが、芦田川の鉄橋を煙をなびかせ一生懸命走る「ラッキョ自動車」の勇姿は現在でも多くの人々の記憶のなかに生き続けています。



鞆鉄道株式会社 専務取締役
梅本武義さん（36年卒）

入社した51年前は、鉄道電話という各駅間の連絡に使っていた私設電話があり、それを利用して鞆の本社、工場、営業所と福山の本社分室営業所は手動で信号を送り連絡をとりあっていました。観光地としての福山そして鞆は、今一つ名前が売れておりません。縁起のよい名前の都市「福山」を首都圏の人々に少しでも知ってもらえればと願っております。

ともてつ 鞆軽便鉄道

芦田川の鉄橋を渡るラッキョ列車

● インターネットで検索すると多くの資料や写真があふれるよう出てきます。今なお残るホームの跡や当時の路線の跡などを訪ねてみるのも良いかも知れません。

広島ブランドショップTAU(たう) ~銀座で広島を堪能!~

銀座一丁目にオープンしました広島県のアンテナショップ「広島ブランドショップTAU」は、7月で一周年を迎えました。

地下1階から3階まで広島の「宝」がいっぱい！
 1階は、広島産生鮮食品、ジェラートなど1,500を超える品揃えの物販店。
 2階は、熊野筆セレクトショップ、カーブ・サンフレッチェグッズ売場、お好み焼き店ほか、約250銘柄の日本酒やワインを揃える広島酒工房。
 地下1階と3階では、広島のこだわりの食材を使用した和食とイタリアンをお楽しみいただけます。ぜひ「TAU」で、広島を体験してください。

- 東京都中央区銀座1-6-10銀座上ービルディング TEL 03-5579-9952
- アクセス 東京メトロ有楽町線銀座一丁目駅6番出口／徒歩約1分
 東京メトロ日比谷線・銀座線 銀座駅A9番出口／徒歩約5分
 JR山手線 有楽町駅／徒歩約5分



もう行った？



福山の街がレトロになる

現在 広島県では、福山市中心部商店街をステージに、昭和の雰囲気満載の観光イベント「備後ふくやま昭和物語」を展開中です。
 「街かど昭和ミュージアム」、「昭和シネマミーティング」、「福山昭和食堂計画」の豪華3本立てで、気軽に昭和へのタイムスリップを体験することができます。

詳しいイベントの詳細情報は▶ [ふくやま昭和物語](#) [検索](#)

- 街かど昭和ミュージアム
 9、10月の土・日・祝日／福山市元町8-2
 昭和の音楽や、ファッション等、「古くて懐かしい」昭和のアイテムをテーマ毎に月替わりで展示。
- 昭和シネマミーティング
 9、10月最終週の土・日／シネマモード(福山市伏見町4-33)
 昭和を彩ってきた名作映画を上映します。9月は音楽系の作品、10月はアニメ系の作品を予定しています。
- 福山昭和食堂計画
 9月～12月25日／福山市中心部商店街
 食堂やレストランなど、福山市中心部商店街の31店舗で鯨の竜田揚げなどの「昭和なメニュー」をリリース。

今年も紹介

知らんじゃろー 福山の歴史

漫画で知る福山の「偉人」

福山市が生んだ「偉人」をもっと知ってほしい。市はそんな願いでゆかりの人物をまんがで紹介する「福山を知ろーゼ」の刊行を始めた。第1弾は幕末のペリー来航時、幕府の最高責任者として日本を開国に導いた福山藩主、阿部正弘(1819~57)だ。

正弘は27歳で現在の首相の役割に近い老中首座に就任。1854年に日米和親条約の締結交渉を指揮した。国学、医学、蘭学などを教える藩校「誠之館」を福山に開き、優秀な人材の育成による国力の向上も目指した。シナリオを書いたコピーライター中山善照さん(74)=福山市津之郷町=は「幕末の複雑な人間関係や世界情勢が分かりやすく伝わるように心掛けた」という。

A5判、200頁 1500円

昨年紹介したまんが物語「福山の歴史」が好評につき再販になりました。下記までお問い合わせ下さい。

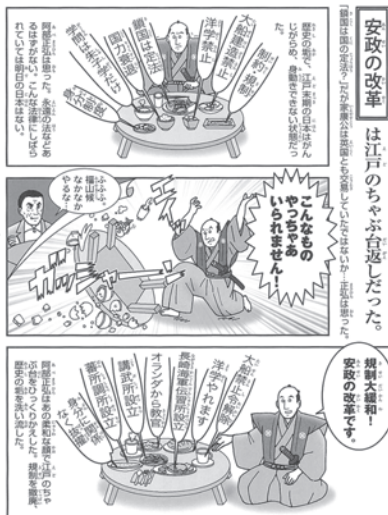
放浪の大名 水野勝成



●お問い合わせ
 中山善照／TEL 084(951)0607
 mail:zens-planning575@kce.biglobe.ne.jp



まんが物語「阿部正弘」ペリー来航そして維新への道



「安政の改革」もまんがだとわかりやすい



地元でブーム？

950円

福山トレーディングカード「ふくめく」は、福山市を遊びながら知ってもらうことを目的に制作されたご当地カードゲームです。本格的なトレーディングカードゲームはもちろんのこと、小さいお子様でも遊べるカルタ遊び、しりとり遊びの複数の遊び方が出来るカードゲームです。カードをめぐる、福山をめぐる、福山にときめく、まちをつくる(make)の4つの思いを込めたネーミングです。



本格的なトレーディングカードゲームとして



カルタ遊びをしながら福山を知る

●お問い合わせ
 福山青年会議所／TEL 084(922)5992

6号に **カンパを頂いた方々です。**

全国から多くの暖かいカンパと励まし、そして原稿をお寄せ下さいました皆様のお陰で、昨年の6号を発行することができました。誌面をお借りしまして感謝の意を表します。ありがとうございました。

福山葦陽東京同窓会会長
高田 稔

恩師/坂本 博、井上謙二、平松朝美/福山葦陽同窓会本部/本部総会時有志/小島卓治(福山)/諏訪光枝(大阪・堺)/大島能楽堂(園尾文恵・荒木紀恵)、S9/小山佳代、S10/片山敏子、S11/石黒治美、S15/高岡翠子、S16/河毛俊子、S19/児玉壽實子、S20/延平季子、坂部佳江、井上八千代、S21/鳥越公香(岡山・小田郡)、武田美津子、佐藤美恵子、福山有志5名、岡村美与(福山)、堀田紹枝(福山)、豊沢朝子、森 成子(大阪・豊中)、S22/渡邊和子、吉田八重子(福山)、寺地洋子(福山)、高木基子、S23/藤井幸子、大村晶子(旭川)、鳥越富美子(福山)、竹政昌子、作田敏子、高比良欣子、S24/永島靖子、市橋信子、石山勝子、川原絹子、S25/佐藤エイ子(新潟)、占部健夫、山本隆造、入江英代(福山)、原田玲子、藤永政江、池口義人、今岡睦敏(広島)、S26/松浦 功、橋本文子、池田幸子、徳永 巖、安部隆子、谷畑陽子、S27/横田冷子、S28/片岡礼子、求山和義、下博行、渡部洋子、長島志津子、小林博子、永島直子、加藤信子、遠藤信子(京都・八幡)、稲垣裕彦(京都・宇治)、S30/池本郁子、小田富子、赤松治美(福山)、S31/三島克紀、若瀬健祐、岡崎信之助(茨城・北相馬郡)、S32/大目誠一、浅井憲龍、福田桂子、石井義信、柳田幸恵、S33/丹下和幸、谷田恭子、藤井栄治、油井寛子、小川敏彦、S34/開原 剛、連石 勉、佐藤凡雄、S35/佐野禎信(福岡・北九州)、真田和恵(福山)、濱田昌彦、伊地範子、吉川由紀子、山本良三、渡邊昌信、若林容子、細川ハテミ、関沢美江、今福義弘(福山)、宮真壽恵(福山)、S36/細井素子(福山)、松田恵子、川端美枝子、東 早苗、高田 稔、井上哲也、神原勝之、向井総昭、和田島美、加藤公彦、曾我登喜、桑原尚子(京都・宇治)、S37/遠藤宏子、岩瀬浩造、S38/升川澄子、S39/中島美代子、佐藤綾子、S40/杉原裕行、田丸佐知子、神原郁子、西 直枝、児島志のぶ、坂本智和、片岡正明、西崎道子(福山)、S41/石田久夫、吉岡清八郎、S43/中山紀代子、S45/波多野由紀子、池田由紀子、小池秀子、茶谷耕司(福山45年卒ラグビー部福山地区一同)、藤井敏博(福山)、S46/佐藤法子、藤江恵子、S47/水澤加代子、杉原郁子、福島育枝、若江清美、S48/谷本澄子、S49/篠塚康孝(福山)、S50/勝岡宏行(福山)、成沢勝行、S53/下井洋行

(卒業年順、敬称略 2013年6月20日現在)
※その他多くの方からもカンパを頂きました。
心より感謝申し上げます。

「あしび」編集室からの お知らせ!

同窓会専用電話の開設

この度、福山葦陽東京同窓会専用電話を開設しました。同窓会に関することや「あしび」に関するお問い合わせなどの連絡用としてご利用下さい。

070-6965-3702

(管理/あしび編集室 45年卒 寄國 聡)

企画テーマ、投稿も募集します!

「あしび」に掲載する記事を募集しております。取り上げて欲しいテーマなどございましたらいつでもご連絡下さい。お便り、ご意見、ご感想などもお寄せ下さい。

●送り方

お名前と卒業年度、ご住所、お電話番号をお書きになって下記まで送って下さい。(絵画、工芸などは作品を撮影した写真をお送り下さい)

●宛先

〒180-0006 東京都武蔵野市中町1-19-2 矢鳥ビル5F(南)ビッグバン内 あしび編集室 寄國 聡 宛
TEL 070-6965-3702 (同窓会専用 寄國 聡)
FAX 0422-52-1596
e-mail: syorikuni@gmail.com

住所等の変更もこちらにご連絡下さい。

**研修
修学旅行**

●福山葦陽高校研修修学旅行について

葦陽高校は10月8日(火)～11日(金)の3泊4日で、東京を中心とした関東方面へキャリア教育を中心とした内容の修学旅行を実施します。

東京同窓会にグループ別研修(大学、企業)の紹介、宿泊先での講演、懇親会の依頼がありました。高校としても、東京同窓会としても初めての試みですが、現役の生徒さんとの交流を通じ、東京への意識向上と同窓会への加入を呼びかけようと思っています。(詳しくは未定ですが計画中です)



**またまた
映画に登場**

●今秋、公開米映画に鞆の浦が

鞆の浦が、9月公開の米・ハリウッド映画「X-MEN」シリーズのヒュー・ジャックマン主演の「ウルヴァリン SAMURAI」に「日本の原風景が残る港町」として登場します。地方都市でハリウッド映画の大規模ロケを行うことはまれで、福山市は「鞆への観光客が減っている中で渡りに黒船」と、世界へのPRのチャンスと期待している。



**画集に
なりました**



24年卒
川原絹子さん

●「川原絹子 源氏物語の世界」

一昨年の銀座Atteでの個展「源氏に魅せられて川原絹子傘寿記念大和絵展」の時の絵を本にまとめることになりました。なかなか思うような色が出ず、絵の本の出版と言うのは、とても大変な仕事でした。でも今何とか仕上がり嬉しく思っております。もしも許されるなら、残りの発表を85歳位でやりたいと思って、頑張ってますが…。



**奇跡的に
入選**



33年卒
丹下和幸さん

●第4回 諸橋轍次博士記念漢詩大会

簡にして要を得、意味深遠である漢詩の作詩を始めて約半年、周囲の奨めもあって清水の舞台から飛び降りる気持ちで応募したところ、奇跡的に入選という小枝に引っ掛かったのがこの作品です。

鎌倉大佛晩秋
(鎌倉大仏晩秋)
潮氣松聲暮色流
(潮氣松聲暮色流)
慈顏拜謁忽忘憂
(慈顏拜謁忽ち憂いを忘る)
佛前獨侍一衰老
(仏前独り侍む一衰老)
過鴈西方半月秋
(過雁西方半月の秋)



入選の賞状

**お見事!
有岡さん**



35年卒(福山)
有岡 享さん

●「まいまい動物写真コンテスト」で受賞

毎日新聞が主催する動物写真コンテストでグランプリを受賞しました。カワセミが双方羽を開き威嚇した後空中に飛びあがり、くちばしを絡ませ、くんずほぐれつの状態を繰り返し、水中に落下してからもなかなか浮き上がらないほどでした。これほどの激しいバトルに初めて出会いました。



今年廃止となった福山競馬の「ラストラン」。
福山に思いをめぐらしていただければ幸いです。



受賞作品「ライバル」





書業六十年

◎昭和25年卒 大楽華雪
だいらく かせゆ

学書に志して六十年。日中の書道交流と、書道史の古跡探訪、古典蹟の臨書は、私の書作人生の中で重き根幹をなすものです。あくまでも作品制作に根底にあるものは古典であり、それによって立脚されたものと自負しています。が、まだまだ解脱できません。

若干十九歳で宇野雪村先生に師事し、上田桑鳩先生からも益を受け「書はその時代と共に新しくあらねばならない」「書を真に現代芸術として確立したい」との若き時代の決意は、今日も不変であり、現代の書の有り様の追及に情熱を注いでまいりました。

プロフィール
昭和25年福山南高校(現福山葦陽高等学校)卒業
(財)毎日書道会常任顧問、毎日書道展名譽会員
筆墨会名誉会長、中国四川省書法家協会名誉理事
一筆会会長、福山市多治米町在住



「高著眼」53×234cm



中国展、日本展の図録

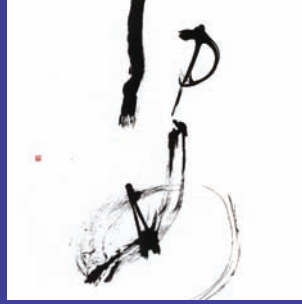


中国展において中国美術館に
収蔵された作品
「葉語」248×125cm



日本展の関係者の皆さん

「由女」69×68cm



25年卒の同期の仲間に囲まれて

平成24年3月23日から4月1日まで北京・中国美術館で開催されました慶祝日中国交正常化四十周年「書業六十年 大楽華雪の世界」中国展に続き、平成24年11月5日より11日まで東京銀座のセントラル美術館で日本展を開催され、同期の方々を始め多くの関係者が集まりお祝いをされました。



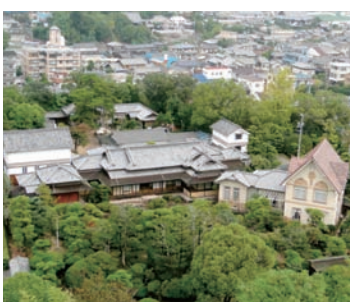
Ashibi
【あしび】
創刊号～06号までがPDFになりました。

PDF
ぴー・でい・えふび*
* PDFファイルを開覧するには、「Adobe Reader」(あどび・リーダー)というアプリケーションが必要です。これは無償で利用可能で、ほとんどのメーカーのパソコンにはあらかじめインストールされています。



〈あしび〉のバックナンバーがパソコンで見えるようになりました。

福山葦陽東京同窓会ホームページに先立ち、あしび編集室より無料ファイル転送サービス「宅ふあいる便」にてPDFファイルにした「あしび」をお送りします。あしび編集室(syoricuni@gmail.com)か、同窓会専用携帯(070-6965-3702) 寄国(よりくに)宛に、卒業年度、お名前、ご覧になりたいあしびナンバーをお知らせ下さい。



お城から見た福寿会館 [07]

福山城天守閣から北東を見下ろすと、洋館・和風の建築が目に入ります。お城の下での校舎からは直ぐ近くにあった建物ですが、天守閣が再建されてからでないと、このような景観は見たことがないはず。震災で焼ける前の天守閣に上ることが出来たのなら見えたでしょう。普段縁のない少し敷居の高い場所のようにも感じていましたが、いまは多目的に活用されているようです。改めてその素晴らしさを実感します!!

tokyo Ashibi 07

平成25年8月31日発行(年1回)
発行人/高田 稔(S.36)
編集・制作担当/寄国 聡(S.45)
編集/福山葦陽東京同窓会役員会・幹事会
編集協力/福山葦陽東京同窓会会員、福山葦陽同窓会本部、近畿・広島支部、福山葦陽高等学校、福山市東京事務所、広島県東京事務所、(公財)ふくやま芸術文化振興財団、新鉄道株式会社、(公財)天野スポーツ振興財団

編集後記

多くの方々からの原稿を頂き、またまた7号も内容の濃いものになりました。発行に快く協力して頂きました東京、福山、そして全国の葦陽高校関係者の皆様ありがとうございました。情報提供なくして「あしび」は成り立ちません。今後ともお気軽にご連絡下さい、楽しい次号のネタ待っています。